

楫取素彦・寿夫妻と長門

今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹「文」が主人公です。文の姉「寿」とその夫で、後に文と再婚する楫取素彦が一時期三隅二条窪に住んでいました。ドラマにも登場する楫取素彦とその妻寿は、どのような人物だったのでしょうか。

楫取素彦

文政12年（1829年）藩医松島家の次男として萩城下で生まれ、小田村家の養子となり「小田村伊之助」と名乗りました。村田清風に見込まれ、明倫館の講師となった後、江戸で吉田松陰と出会い意気投合しました。



▲楫取素彦（小田村伊之助）

嘉永6年（1853年）に、松陰の妹「寿」と結婚。安政6年（1859年）に安政の大獄で吉田松陰が処刑さ

れると松下村塾を託されました。そしてその年、藩主毛利敬親に仕えることになりました。

慶応元年（1865年）、木戸孝允に坂本龍馬と会うよう手紙を書き、薩長同盟の実現に貢献。この頃、藩の命令で「楫取素彦」と改名しました。

明治維新後、三隅二条窪に桜楓山荘を構え、明治4年（1871年）ごろそこで隠棲しました。約1年後、足柄県（現神奈川県西部）に赴任し、明治9年（1876年）には、初代群馬県令（県知事）に就任、殖産興業や教育に熱心に取り組みました。

明治14年（1881年）に妻寿が亡くなると、2年後にその妹で、禁門の変で戦死した久坂玄瑞の妻、文と再婚。大正元年（1912年）に防府三田尻で死去。享年84歳でした。

楫取 寿



▲楫取 寿

寿は吉田松陰の実の妹で、杉家の次女として天保10年（1839年）に生まれました。聡明で豊かな教養もあり、熱心な浄土正宗の信者でした。15歳で楫取素彦と結婚。二条窪での隠棲の後、再び群馬県令として政治の表舞台に戻った素彦に寄り添い、群馬の荒々しい県民性を改めようと浄土正宗の布教に努めました。明治14年（1881年）、43歳で死去。

今も残る楫取夫妻の足跡

2人が二条窪で隠棲していた理由はよく分かっていますが、ここでの生活は夫婦水入らずのゆつくりとした時間を過ごしたようです。

二条窪で楫取は自らくわをとり、村人と汗を流しました。勤労意欲も旺盛で、そのおかげで美田が広がっていました。

そんな中、明治4年に山林大火災が発生。楫取は自暴自棄になりかねない村人たちと、山林の復活を目指し造林作業に精を出しました。そのおかげもあり、スギやヒノキの山林は総面積13.4ヘクタールにのぼり、今でも「楫取山」として受け継がれています。



▲素彦が植林した山は楫取山と呼ばれている

企画展を開催します

三隅で過ごした楫取素彦・寿夫妻について、次の日程で企画展「楫取素彦と妻・寿」展を開催します。

またその中で、村田清風や周布政之助についても紹介します。

■会期 平成27年1/30(金)

～平成28年1/11(月)

■会場 村田清風記念館

■内容 楫取素彦・寿夫妻が過ごした三隅二条窪での隠棲生活を中心に、成長く動乱く隠棲く飛躍く晩年と、夫婦のあゆみを追う企画展

■主催 「楫取素彦・寿」展実行委員会

パネル展を開催します

「楫取素彦と妻・寿」展実行委員会では、上記企画展とは別に、「楫取素彦と妻・寿」パネル展を開催します。

●日置農村環境改善センター

会期 1/5(月)～1/19(月)

●ラポールゆや

会期 1/20(火)～2/2(月)

■問い合わせ 「楫取素彦・寿」展実行委員会事務局（三隅支所内）

Tel.43・0221



▲寿が村人に託した掛け軸

野波瀬の極楽寺には、寿の書いた書も残されています。この書は、寿が二



▲村田清風



▲周布政之助

周布政之助は、村田清風の流れを汲む政治家で、藩政改革の中心となる政治結社嚶鳴社を結成し、その中に楫取素彦も名前を連ねました。周布は藩内の権力争いにたびたび巻き込まれ、最後は禁門の変（1864年）の責任から、42歳で自刃しました。



▲村田清風記念館

